

3.4 注目すべき種の分布状況

近年、園芸用に輸入された種や飼料穀物に紛れ込んだ種子の自然界への逸出などに伴って、本来は日本に生息しない国外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

このような人の活動に伴う生物の移動による、国外外来種（シナダレスズメガヤなど）の逸出・定着によって絶滅危惧種（カワラノギクなど）の生育場所が奪われるなどの影響が懸念されています。また、外来種と在来種の交雑によって雑種が形成され、地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失が懸念されています。

ここでは、河川への国外外来種の侵入状況を明らかにするため、国外外来種の確認状況について整理しました。

【国外外来種の河川への侵入状況】

（植物調査、河川環境基図作成調査）

● 河川水辺の国勢調査における新規確認の国外外来植物は7種を確認

平成22年度河川水辺の国勢調査において、キヌイトツメクサ、アメリカビユ、フウ、アレチケツメイ、オオバベニガシワ、ミナトマツヨイグサ、セイタカハマスゲの7種の国外外来種を初めて確認しました。これらの種の導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。その中で、フウとオオバベニガシワの2種は、園芸目的で栽培されていたものが逸出したものと考えられます。これらの種が本来の分布域ではない河川に生育することで、在来の生態系に何らかの影響を与えることが懸念されます。

（資料掲載：3-94ページ）

河川区域において、シナダレスズメガヤやハリエンジュなど、多くの国外外来種がみられるようになり、生態系への影響が懸念されています。

ここでは、河川区域への国外外来種の侵入状況を把握するため、導入目的を緑化用、耕作地雑草、牧草用、園芸用、その他に分けて整理しました。

今回とりまとめを行った37河川で、440種の国外外来種が確認されました。そのうち、キヌイトツメクサ、アメリカビユ、フウ、アレチケツメイ、オオバベニガシワ、ミナトマツヨイグサ、セイタカハマスゲの7種の国外外来種を初めて確認しました。地方別にみると、関東地方2種、中部地方2種、近畿地方2種、中国地方2種となっています。

導入目的は、7種のうち、フウ、オオバベニガシワの2種について、園芸目的で導入された種が逸出したものと考えられます。

これらの種が河川で繁茂した場合には、生態系に影響を与えることが懸念されます。生態系を維持するためにも、今後のモニタリングを継続していきます。

新規確認の国外外来種の利用区分

No.	科名	種和名	地方	確認河川	利用区分
1	ナデシコ科	キヌイトツメクサ	中部	豊川	その他（不明）
2	ヒユ科	アメリカビユ	関東	荒川	その他（不明）
3	マンサク科	フウ	中国	江の川	園芸目的
4	マメ科	アレチケツメイ	中部	庄内川	その他（不明）
5	トウダイグサ科	オオバベニガシワ	近畿	揖保川	園芸目的
6	アカバナ科	ミナトマツヨイグサ	中国	佐波川	その他（不明）
7	カヤツリグサ科	セイタカハマスゲ	関東	荒川	その他（不明）
			近畿	加古川	その他（不明）
計	7科	7種	4地方	7河川	2型

利用区分については以下の文献等を参考にした。
 世界の雑草 離弁花類 全国農村教育協会 平成5年
 新牧野日本植物圖鑑 北隆館 平成20年
 日本の帰化植物 平凡社 平成15年
 日本帰化植物写真図鑑 全国農村教育協会 平成22年

その他（不明）については、上記文献等に記載があったものの、利用について明記されていなかったものである。